

ウスメバル放流種苗作出試験（小泊・下前・三厩）（要約）

村松里美・鈴木亮

目 的

流れ藻に付随して陸奥湾内へ移動してきたウスメバル稚魚を採集し、放流適サイズまで中間育成し、種苗放流による資源造成の可能性について検討する。

材料と方法

1. ウスメバル稚魚の採集

2021年5月19日から6月8日に、陸奥湾内の青森市奥内及び後潟地区のホタテガイ養殖施設42箇所に設置した、海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップに集まったウスメバル稚魚をタモ網で採集した。稚魚採集はトラップに使用したアカモクが流失するまでの間に、奥内地区、後潟地区でそれぞれ6回ずつ、合計12回行った。採集したウスメバル稚魚は一時的に、青森市水産振興センターの陸上水槽に收容した。

2. 放流用種苗の育成

青森市水産振興センターから、2021年5月27日及び6月10日の2回に分けて、当研究所の八角形型10トン水槽2面に收容し、中間育成を開始した。8月24日に選別及び分槽を行い、八角形型15t水槽2面と10t水槽1面に分けて育成した。

結果と考察

1. ウスメバル稚魚の採集

採集したウスメバル稚魚は、奥内地区で17,000尾、後潟地区で12,000尾の合計32,000尾であった。このうち31,000尾を放流用種苗の育成に用いた。

2. 放流用種苗の育成

放流用種苗の育成結果について表1に示した。

中間育成の生残率は98.4%で、30,500尾の放流用種苗を作出した。育成した種苗のうち、7,500尾（平均全長79.0mm、平均体重8.3g）を2021年9月22日に小泊漁協、13,000尾（平均全長60.6mm、平均体重3.6g）を9月28日に下前漁協、10,000尾（平均全長69.1mm、平均体重5.5g）を10月8日に三厩漁協へ運搬した。小泊漁協は漁港内（ホンダワラ漁場）、下前漁協は下前沖（水深20m、ホンダワラ藻場）、三厩漁協は三厩沖（水深43m、魚礁付近）へ全尾放流した。

表1 放流用種苗の育成結果

中間育成開始日	收容尾数(尾)	收容開始サイズ		中間育成終了日	取上げ尾数(尾)	生残率(%)	取上げサイズ		放流場所
		平均全長(mm)	平均体重(g)				平均全長(mm) [最大:最小]	平均体重(g) [最大:最小]	
				2021/9/22	7,500		79.0 [84:69]	8.3 [10.3:5.3]	小泊漁港内 (ホンダワラ藻場)
2021/5/27 2021/6/10	31,000	22.8	-	2021/9/28	13,000	98.4	60.6 [75:50]	3.6 [6.7:2.0]	下前沖水深20m (ホンダワラ藻場)
				2021/10/8	10,000		69.1 [79:52]	5.5 [8.2:3.6]	三厩沖水深43m (魚礁付近)

発表誌：小泊・下前・三厩ウスメバル放流種苗作出試験報告書。（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所, 2021年9月, 10月.